

当院における輸血担当技師の救急外来における活動報告

◎足立 峰音¹⁾、尾上 郁美¹⁾、遠山 卓¹⁾、小野山 卓志¹⁾、細川 詩奈¹⁾、江口 光徳¹⁾
医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院¹⁾

【はじめに】当院には救急外来にハイブリッドER システム（以下 HERS）という処置室がある。HERS では処置台の所に CT 装置が移動し、患者を移動させずにそのまま CT が取れ救急処置、診断について素早く対応できる。HERS では重症症例に対応することが多く、緊急輸血対応になる可能性が高い。今回当院検査科で HERS 適応症例の緊急輸血対応についての取り組みをまとめるとともに、検査科輸血担当技師へ取り組みに対する聞き取り調査を実施したので報告する。

【対応】取り組み前までは、救急外来に患者が搬送され医師より輸血の依頼電話が来て初めて輸血準備を行っていた。また電話対応のみでは現場の状況が分かりづらく、緊急度がうまく伝わってこない場合もあり輸血担当技師の初動が少し遅くなる場面もあった。当院では HERS 使用の対象となる重症者の搬送依頼が入ると「トラウマコード」が発令され館内放送がかかるようになった。これまで検査技師は救急外来からの連絡待ちの状態であったが、通常勤務内では「トラウマコード」が発令されると、輸血担当技師は

O 型 RBC と AB 型 FFP の在庫を確認しすばやく救急外来へ向かうことにした。HERS にて患者到着前に行われるブリーフィングに参加し、搬送される患者の状況、緊急輸血の可能性、すぐ使用できる輸血の在庫量、その他の情報を共有しチームの一員として動くようになった。輸血コマンダーに任命された医師と密に連絡を取り、場合によっては患者到着前から FFP の溶解をスタートさせることもある。

【結果】詳しくは当日示すがこの取り組みにより患者到着から輸血開始までの時間を若干短縮できる結果となった。さらに検査科輸血担当技師への聞き取り調査結果からも概ね良好な意見が得られた。

【まとめ】上記の対応以外にも月 1 回の HERS 運営会議や HERS 症例検討会にも検査技師が参加し、緊急対応の振り返りや改善点などを話し合っており、これらの取り組みを行うことで検査科輸血担当技師などの意識が変わってきたと感じられる。改善点などはまだあると思うが、今後も継続して活動を続けていきたいと思う。

宇治徳洲会病院 0774-20-1111